

令和4年6月1日

道灌山学園保育福祉専門学校

校長 高橋 系治 殿

道灌山学園保育福祉専門学校

学校関係者評価委員会

2021年度 学校関係者評価報告書

学校法人 道灌山学園 道灌山学園保育福祉専門学校は、2021年度の自己評価を鑑みて学校関係者評価を行いましたので報告致します。

記

1. 学校関係者評価について

学校関係者評価を、卒業生、同種関係者界、保護者、地域の方を合わせ学校が依頼した委員の方々と構成されている。「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき学校で行った自己評価の結果を客観的に評価する。

2. 目的

学校が行った自己評価の結果を踏まえて、あらためて学校関係者評価委員の方々より客観的学校の運営の発展、改善点等、教育の質を確保するための方策を図ることを目的として行います。

3. 自己評価・学校関係者評価の期間

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）

4. 学校関係者評価委員会委員

北原 隆史 東京教育保育専門学校校長 （教育関係者）

芦川 浩之 学校法人あおい学園 あおい幼稚園園長 （教育に関し知見を有するもの）

高橋 系造 社会福祉心育会 道灌山保育園園長 （教育に関する知見を有するもの）

早川 裕介 道灌山学園保育福祉専門学校同窓会会長 （卒業生）

5. 学校関係者評価委員会の開催

令和4年3月22日 （道灌山学園 教育センター3階会議室）

6. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

2021年度（令和3年度）

学校関係者評価報告書

2021年3月

学校法人 道灌山学園

道灌山学園保育福祉専門学校

1. 学校の理念・教育目標

幼児教育は、人間性の基礎を培う上で、極めて大切に有り、それには、心豊かで誠意と愛情を持った保育者の養成が重要と考え理念・目標に掲げて教育に取り組んでいる。ここにきて保育・介護に対する重要さが叫ばれ、保育者・介護者の期待が増し、その期待に応える学生の育成が問題になっている。

2. 重点目標と達成計画

本校では、学校運営を円滑に行うために教職員が教育の理念を十分理解し、一体となり教育を推進している。学生の資質の向上、意欲のある学びに取り組む、自主性のある学生が育つように学習に取り組めるように期待している。

(1) 学生の資質の向上と、実力の有る教員・介護福祉士の養成・保育者・介護者としての自覚を持ち使命感の有る人材を育て、技能や知識を身に付ける。

- ・ 幼児の発達段階や、課題を理解しその対応の指導が出来る対応能力の育成を行う。
- ・ 高齢者のこころとからだのしくみを理解し総合的に生かせる能力開発を推進する。
- ・ 社会人としての人間性を備えた良き社会人として正しい倫理感を持つ人間を養成。

(2) 意欲が有り、人間性豊かな、保育士・介護福祉士の育成

- ・ 意欲的で気付いて行動できる人材の育成に努める。
- ・ 仲間と共に学び合う中で、コミュニケーション能力を高め協力できる人間関係を構築する。
- ・ 人間愛の元、一人ひとり認め合い、感性を育てることに尽くす。

3. 評価項目別取り組み状況のご意見・質問は以下に記載する

(1) 基準 I 教育理念・目標・育成人材像

新型コロナウイルス感染症が7月の第5波、令和4年1月の第6波と発生したがその対策のために、オンライン授業、週1日程度の投稿授業などで授業の推進をせざるを得なかった。施設実習に付いても受け入れ側のコロナ罹患の発生又は罹患防止の為、施設実習学内演習の授業に替えて実施した事例も発生。また、3密防止の観点で中止をせざるを得なかった学校行事もあり、対策を取ったうえで授業実施で教育目標をどのようにして達成していったかについて意見が寄せられた

(2) 基準 2 学校運営

新型コロナウイルス感染症の初期段階では、学生自身のウイルスへの恐れに意識が薄く、消毒、3密の意識付けが引き続き必要との意見があった。

クラス合同の講義は、大ホールでソーシャルディスタンスを守りながら講義、オンライン授業が行われた。オンライン授業中の受講態度など学生のインターネット環境での受講態度の確認が行われた。

(3) 基準 3 教育活動

新型コロナウイルス対応として新年度教科書を各学生に発送し講師より課題を出題し

学習を開始。リモート学習の環境準備を進めていく。学生一人一人に通信環境を訪ね、学校より各学生のスマートフォンにテスト通信をして確認する。

学生のリモートでの学習の成果についてどうであったかの質問が寄せられた。

講師のパソコン環境を確認した結果、自宅より発信する方、学校から映像発信する等講師の状況に合わせて対応が、引き続き講じられた。

(4) 基準4 学修成果

各関係機関から送られている感性症対策ガイドラインに基づき保育実習のカリキュラム作成を行い、校内での実習に変わる施設実習学内演習が行われた。

健康観察表を導入、授業前に記入意識付けを行うことを徹底した。

新型コロナウイルス禍で授業がとどろりなく推進されている報告を受け、直接体験の経験不足が心配されることのご意見もあった。

(5) 基準5 学生支援

日本学生支援機構の給付奨学金、貸与奨学金、各自治体の保育士修学資金の紹介、企業が企画している割安な資金を付与が借りられる所紹介、学費の分納制度等、学生に取って学びやすい支援について質疑があった。

(6) 基準6 教育環境

大ホールでの授業が出来る環境、新型コロナウイルス対策によるオンライン授業の整備、本年度は、今まで以上に環境を整備することが性急に求められた。委員からは必要性に迫られた即効性の有る対応に対し賛美が寄せられた。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

学校説明会学期始めは、自粛をせざるを得なかったが、後半安全面に十分配慮しながら3密を防止し、消毒を徹底し来場者カードを記入して、開催することが出来た。

高等学校への説明会は、減少傾向にあり募集には苦戦が予想される。

委員からは、個別相談会の開催に努力しこのような時期こそ地道な学生募集に加え、検討中の指定校制度は重要でないかとの意見があった。

(8) 基準8 財務

18歳人口の減少傾向がみられ、大学、短大ですら苦戦しているといわれている。学生が集まって初めて学校運営が成り立つ現在、従来以上に高等学校との連携を図ることが重要ではないかと意見があった。

(9) 基準9 法令等の遵守

毎年の機関に対しての業務報告書を提出し法令基準に遵守し確実にやっている。東京都より学園全体の会計監査も数年毎に行われている。

学生のしおりに必要な規則・規定を整備し学生に提示しているが、意識付けを効果的に行うことが大切ではないかと意見が寄せられた。

(10) 基準10 社会貢献・地域貢献

各施設では、行事の際には実習生の手伝いで執り行われることが多々あるが、本年度

もすべての行事が見送りとなり地域に出る活動は、自粛せざるを得なかった。

4, 令和3年度重点目標の自己評価について

100年に一度という新型コロナに世界中が襲われて2年目、日常出来たことが出来ない日々が続いている。道灌山学園の本幹の心育学に向けて学ぶ形態は変わっても修学の機会を確保することを重要ととらえ、取り組む一年であった。

I. 学生の学びを確保するために、新学期は教科書の宅配便での発送と課題を同時に課しその後、提出をさせるなど、社会状況に応じて学校として配慮した。

II. 従来の講義の形態で学生が直接教室で聞く対面講義、オンラインでの授業等、様々な形態が実行され、これからは、新たな教育方法として生かしていくこととし推進する。

III. 実習は直接経験して学ぶものであるが、演習で替えた部分もあったが、学生がそのやり方を、前向きに取り組むことにより良い成果が出せた。

IV. 学生と教職員、学生同士のつながりが希薄となり、今年ほどコミュニケーションの重要性を感じさせられることが無く、不足したコミュニケーションの取り戻しを今後の課題とし引き続き推進していく。